

社会科学習指導研究委員会

一 テーマ

「誰もがわかる・できる授業を目指して」 ～個別最適な学びを実現する ICT 機器の活用を軸に～

二 テーマ設定の理由

今日教員には、子どもたちに基本的知識や技能を確実に習得し、主体的に粘り強く学習に取り組む力を育むことが求められている。社会科学習指導研究委員会では、この「子どもの主体的な学び」について「なるほど！そういうことか！」「よし、できた！」といった子どもたちの「わかる」や「できる」といった喜びが学びに対する意欲の高まりや思考の深まりとなり、その積み重ねが子どもたちの主体的な学びにつながるのではないかと考える。

そのために、どのような授業を構想し、どの場面でどういった支援が必要になってくるのかを追究していく。また、指導方法の研究と併せて、個別最適な学びのために市から配付されている ICT 機器をどのように活用したらよいかを小・中の事例をもとに研究し、子ども一人ひとりの「わかった」「できた」に迫ったものにしたいと考え、本テーマを設定した。

三 研究の経過

本年度は、上田市立神科小学校と上田市立真田中学校の授業と教育課程研究協議会の午後の研修を通して、研究テーマである「誰もがわかる・できる授業」について、委員や参観者の視点から語られる子どもたちの学びの姿について迫っていった。

四 研究の内容

1 神科小学校の実践から

(1) 研究の概要

子どもたちが社会的事象の見方・考え方を生かして見出した課題を追究する過程で、1人1人が見通しをもってねばり強く追究するための手立てと追究過程で生じた新たな疑問や課題をどのように解決していくのかを探る。

(2) 研究テーマ

社会的事象の見方・考え方を生かして、自ら課題を見つけ、他者と関わりながら粘り強く追究する子ども

(3) 神科小学校指導案

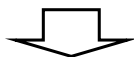
① 単元名

「農家の仕事～上田市のりんごづくりを調べよう～」

② 単元設定の理由

☆児童の実態〔このような子どもたちに〕

- 自分の家のまわりや学校のまわりにある物（史跡・施設、農作物等）に興味・関心があり、意欲的に調べようとする姿が見られる。
- 上田市や神科地区の農産物（りんご・ぶどう・稲等）に興味・関心があり、地域探検を通して、どの地区で主に栽培されているかを調べることができた。
- 3年生になり、初めて地図にふれ、地図に登場する様々な記号や用語に、興味を持って知ろうとする姿が見られる。
- 自分の家や学校のまわりについて、地域探検等を通して、楽しく調べた子どもたちではあるが、地区にある物の特徴やその背景や理由等には、なかなか気づけず（見つけられず）、関心や疑問をもって更に追究していこうとすることがなかなかできない。
- 四方位・八方位や地図の描き方などを楽しく学習した子どもたちではあるが、実際に自分のいる位置や向いている方位などを正しくとらえることがなかなかできない。



☆支援の内容と方法〔このような手だてを考えたら〕

- 社会的事象を多角的に思考・判断し表現していけるように、学習問題・学習課題の設定を工夫したり、追究する内容の焦点化を図ったりしていく。（地理的な広がり・歴史的な流れ・人々の関わりなど）
※学習活動の中で、「社会事象の見方・考え方」を明確にしていく。
→子どもたちが何を目的にどのような方法で学習を進めていくのかを明確にし、学習の見通しを持てるようにしていく。
→学習活動の中で、（子どもたちの気づきやつぶやきから）子どもたちの多角的な見方・考え方をつなげていく授業作りを工夫していく。
- 資料の本質となる部分（この資料をどのように教材化して、どんな力を付けるのか、どういう方法で使用するのか）を教師側がしっかりととらえ、教材化を進めていく。
子どもたちから「調べたい!」「知りたい!」「なぜ?（問い）」が生まれてくるような教材化を図っていく。
- 農業に実際に携わる方々との交流やお話を聞く時間、地域探検等実際に外に出て、五感で感じる（経験する）時間を工夫し、設定していく。（総合的な学習との連携）

- 上田市・長野県の農業に関する資料、副教材“わたしたちの上田市”、ICT（クロームブック）を活用し、子どもたちが視覚的に取り組めるように、教材化を図っていく。
- グループ学習等の形態を設定し、友だちと関わりながら追究していく機会をつくっていく。



☆ 願う子どもの姿〔このような児童の姿になるだろう〕

- 自ら、疑問や調べたいことを見つけ出し、学習問題（課題）に対し、意欲的に粘り強く取り組もうとする姿が見られるだろう。
- この事象はどう広がっているのか、なぜ・どう変わってきているのか、この事象とこの事象はどう関わっているのか、など社会的事象の様々な面について、気づき考えることができるだろう。
- 友だちと意欲的に関わりながら、学習内容を共有する姿が見られるであろう。

③ 単元の目標

・全体目標

上田市のりんごに携わる農家の仕事について、りんごの栽培条件や仕事（作業）の種類、仕事の工程、生産量やりんご農家の戸数等に着目して、見学・調査したり、地図等の資料で調べたりして、まとめることで、りんごの生産に携わる方々の仕事の様子をとりえ、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、農家の仕事は地域の人々の生活と密接な関わりを持って行われていることを理解できるようにすると共に、主体的に学習問題を追究しようとする態度を培う。

・評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①上田市の主な農産物やその生産量、特産品のりんごの栽培条件、りんご農家の仕事の種類や工程、りんごの生産量・りんご農家の戸数等について、見学・調査したり、資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、長野県や上田市の特産品がりんごであることやりんごの生産に携わっている人々の仕事の	①りんごの栽培条件、りんご農家の仕事の種類や工程、りんごの生産量・りんご農家の戸数の推移等に着目して、疑問や調べたいこと等を見だし、生産に関わっている人々の仕事の様子について考え、表現している。 ②りんご農家が様々な工夫や努力をしている理由や	①上田市のりんご生産の仕事について、進んで調べ、自ら疑問や学習問題を見いだしたり、友だちと関わりながら意欲的に追究し、解決しようとしている。また、学習を振り返り、次時の学習への意欲を高めている。

<p>様子等を理解している。</p> <p>②調べた事や分かった事等を学習カード等に図や文でまとめ、生産の仕事のおよその過程や、生産の仕事が地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることが分かる。</p>	<p>願い・思いを考え、表現している。</p> <p>③生産の仕事の様子と地域の人々の生活との関連を考え、学習カードにまとめたり、発言等をしている。</p>	
--	--	--

•単元の展開

学習活動 「学習問題」	○主な学習内容・活動内容 ☆「学習課題」	◇支援・手だて 指導上の留意点	評価 (評価方法)
<p>1「私たちの上田市や神科地区ではどのような野菜や果物をつくっているのだろうか。」</p> <p>(1時間)</p>	<p>☆「私たちの上田市や神科地区では、どんな作物が多くつくられているのだろうか？」</p> <p>○地域(上田市や神科地区)でつくられている作物を探し、つくられている場所や生産量などを調べ、気づいたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食彩館では、きゅうりやレタス、ふき、トマトなどがたくさんならんでいたよ。 ・今の時期にはないけれど、りんごやお米が多いんだね。 ・りんごは、神科地区の特産品だったんだね。 <p>上田市や神科地区では、様々な野菜や果物がつくられている。その中でもりんごや米が多くつくられている。</p> <p>////////////////////////////////////</p> <p>《P6》①②</p>	<p>◇上田市の主な野菜や果物の種類、生産額、生産量のグラフに着目させて、調べる。また食彩館の写真を掲示し、どんな種類の野菜や果物が並べてあるか、調べる。</p>	<p>【知識・技能】① 上田市で育てられている主な野菜や果物の種類や生産量が分かる。 また上田市(神科地区)の特産が、りんごであることが分かる。 〔学習カードや発言から〕</p>
<p>2「“りんごづくり”について、気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、これからの学習を考えていこう。」</p> <p>(1時間)</p>	<p>☆「りんごづくりについて見たことや知っていることを出し合い、どんなことを知りたいか・調べていきたいか、考えていこう。」</p> <p>○“りんご”や“りんごづくり”について、知っていることを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々なりんごがあるよ。“サンふじ”や“シナノゴールド”“シナノスイート” ・りんごの中に蜜が入っているのがおいしいんだよ。 ・畑に大きなりんごの木があったね。でも細い(小さい木)がたくさんならんでいるところもあったよ。 ・りんごってどうやってつくるのかな？ ・りんごの種類ってどのくらいあるのかな？ ・永井さんや高寺さんの家では、どのくらいのりんごを育てているのかな？ <p>※上田市や神科地区は、なぜ、りんごづくりがさかんなのだろうか？ 〔これから、りんごやりんご農家のことをいろいろ調べていこう!〕</p> <p>////////////////////////////////////</p>	<p>◇総合の学習で行った各地区の畑の様子を想起させる。 写真(画像)を提示する。 ◇クラスの友だち(りんご農家)から、どんなことをやっているか教えてもらう。 ◇必要に応じて、クロームブックを活用し、上田市のりんごについて調べる活動を設定する。</p>	<p>【思考・判断・表現】① 「りんごづくりについて、気づいたことや疑問に思ったことを見だし、学習問題を考えている。」</p> <p>〔学習カードや子どもたちの発言から〕</p>

<p>3 「“りんご”ってどんな果物なのだろうか？」</p> <p>(2時間)</p>	<p>☆「“りんご”はどんな果物なのだろうか？どんな種類があるのだろうか？」</p> <p>○りんご農家の友だちに聞いた り、クロームブックで調べたりしながら発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りんごは寒さにとても強く、暑さに弱い果物だということが分かったよ。病気には弱いんだね。 ・雨がすくない所の方が良く育つらしいよ。 ・上田市や神科地区には、ぴったりだね。だからりんごが、たくさん育てられていたんだね。 ・りんごの種類は、144種類もあるんだよ。すごい！おいしいりんごを育てるために色々な種類がつけられたんだね。 ・長野県りんごの生産量は、第2位なんだね。すごい！ ・「サンふじ」や「りんご三兄弟」が有名だね。 <p>〓長野県や上田市（神科）は、りんごづくりに適している所で、“サンふじ”や“りんご三兄弟”が特産品になっている。〓</p> <p>《P6》③④</p>	<p>◇りんごをつくっている家の友だちから、りんごの種類を聞いたり、どんな果物なのか聞いたりする活動を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りんごの木の特徴などをクロームブックで調べたりする活動等を設定していく。 <p>調べるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りんごの栽培条件 ・りんごの種類 ・長野県りんごの生産量 	<p>【知識・技能】① 「りんご栽培に適した気候の条件やりんごの種類を知ったり、長野県りんごの生産量から、長野県がりんごの栽培が盛んな県であることが分かる。また、上田市・神科地区がりんごの栽培に適していることに気づいている。」</p> <p>〔学習カードと子どもたちの発言から〕</p>
<p>4 「りんご農家では、1年間、どのような仕事をしているのだろうか？」</p> <p>(2時間)</p>	<p>☆「りんご農家では、どのようなことに注意しながら、どんな作業や仕事をして、りんごを育てているのか、調べよう。」</p> <p>○りんご農家の飯田さんからお話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花摘みや受粉、摘果、収穫…いろいろな作業があるんだ ・1年中いろいろな作業があって、大変だと思った。 ・消毒を10回もやるなんて、びっくりした。なぜそんなにやるんだろう？ ・りんごづくりは、とても手がかかると分かった。 ・霜が降りたりすると、花が枯れて実がなくなると分かった。 ・雹（ひょう）や台風でも、大きな被害があるんだね。 <p>〓りんご農家は、おいしいりんごをつくるために、消毒などの作業を何回もやる等、計画を立てながら、作業・仕事をしている。〓</p> <p>《P6》⑤</p>	<p>◇りんご農家の飯田さんから、お話を聞いて、りんごの暦をおおよそつかむようにしていく。</p> <p>また、特に気をつけている事や手がかかる（注意している）所・心配な点等を教えていただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りんごの特徴なども合わせてお話していただく。 ・りんごは病害虫にかかりやすいことと関連させて消毒の必要性を考えるようにしていく。 ・の栽培は天候に大きく左右されることにも気づけるよう、お話をしただけ。 ・地球温暖化で、品質の良いりんごが採れなくなっていること等についても、悩みとしてお話していただく。 	<p>【知識・技能】② 「1年間のりんごづくりのおおよその作業の種類や内容、工程が分かる。」また、「りんごづくりは、手がかかり、農家の方々が一生懸命取り組んでいる様子を理解することができる。」</p> <p>〔子どもたちのまとめている学習カードの内容から〕</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】① 「自分が知りたい事を、積極的に質問し、メモをとったりまとめようとしている。」</p> <p>〔子どもたちの質問する様子やメモをとっている内容から〕</p>

<p>4 「なぜ、長野県や上田市のりんごの生産量や農家の数が減ってきているのだろうか？」</p> <p>(1時間)</p>	<p>☆「なぜ、長野県や上田市のりんごの生産量や農家の数が減ってきているのか、飯田さんのお話や最近の天気の様子等から考えてみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「上田市や神科地区のりんごの生産量やりんご農家の戸数は、どのくらいなんだろう？」 <p>○りんごの生産量やりんご農家の戸数についての資料を見て、気づいたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜりんごの生産やりんご農家の方が、減ってきているんだろう？ ・地球温暖化って言っているから、暑さに弱いりんごは育ちにくくなっているのかもしれないね。 ・寒くならないと、りんごに赤い色がつきにくいって言ってたね。 ・遅霜や台風で、いいりんごが育たなくなっている。 ・手がかかってとても大変だからやる人が少なくなっているのかもしれないね。 ・今はいろいろな果物がたくさんあるから、りんごもそんなに食べなくなっているのかもしれない。 <p>地球の温暖化（天候の不順）や消費の停滞などにより、りんごの品質が落ちたり、生産量や農家数が減ってきている。</p> <p>《P6》◎</p>	<p>◇上田市のりんごの生産量が分かる資料を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフを提示し、徐々にりんごの出荷量が減ってきていることに気づくようにしていく。 <p>◇りんご農家の飯田さんのお話（苦労している点や悩んでいる点）を元に理由を考える。</p>	<p>【思考・判断・表現】① 「資料(りんごの生産量の推移等)やりんご農家が困っていること・悩んでいる事等から、分かることやその原因等を考え、発言しようとしている。」</p> <p>〔子どもたちの学習カードや発言から〕</p>
<p>5 「りんご農家の方々はりんごづくりで、どのような工夫や努力をしているのだろうか。」</p> <p>(2時間)</p> <p>※本時</p>	<p>☆「りんご農家の方は、こんなに大変な状況の中で、どんな工夫や努力をして、りんご作りをしているのだろうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「永井さんの果樹園は、全国ですごい賞をとっているよ。どんなりんご作りをしているのかなあ？」 ・「標高の違うところで、りんごを育てているみたいだよ。」 ・「なぜ、違う場所でりんごを育てるのかな？」 ・「高寺農園や新屋のりんご畑には、たくさんの細い木がならんで植えられていたよ。あれが高密度栽培なんだね。」 ・「なぜ、りんごの木があんなに細かく植えられているのだろうか？」 <p>☆「なぜ(何のために)このような工夫や努力をしているのだろうか？どんな理由や良</p>	<p>◇資料「わたしたちの上田市」を参照して、りんご農家の方々が工夫している作業や栽培方法を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・永井果樹園の標高差を利用した農法を紹介する。 ・高寺農園の画像「高密度栽培の様子」等を提示し、その利点などを紹介する。 <p>◇りんご農家の方々が、取り組んでいる様々な工夫や努力を資料などから調べるようにしていく。</p>	<p>【知識・技能】① 「りんご農家の方々が、取り組んでいる様々な工夫や努力、またその理由や目的が分かる。」</p> <p>【思考・判断・表現】② 「りんご農家の永井さん・高寺さん・飯田さんが様々な工夫や努力をしている理由や願いを、りんご農家が抱えている問題(原因)と関連させながら考え、発言しようとしている。」</p>

	<p>さがあるのだろうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> • いろいろな標高の所で、りんごを育てているんだね。 → 高さが違うから、りんごのでき方も違うかもね。 りんごは寒い方がいいから、高い所の方が、おいしいりんごができるのかも 花の咲く時期が1週間遅れるから、一度に同じ作業をしなくてもいいから、農家の人は楽になると思う。 → 霜が降りたら、花が枯れてしまうけれど、全部の果樹園がだめになってしまうことはないよね。標高が違うから、どこかのりんごは助かると思う。 • 高密度栽培…たくさんの方のりんごの木を植えるから、それだけたくさんの方のりんごの実がとれるんじゃないのかな？ • 木が小さいから、作業が楽になるんだね。 • 良いりんごがたくさん実ったら、たくさんの方が買ってくれると思う。 • そしたら、農家をやめる人もいなくなると思う。 • 地球温暖化でも、おいしいりんごをつくることできる。 <p>☆「りんご農家（飯田さん・永井さん・高寺さん）の皆さんは、なぜこんなに頑張れるのだろうか？」</p> <p>「飯田さんたちは、どんな思いを持ってりんごづくりをしているのだろうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「お客さんにおいしいりんごを食べてもらい、喜んでもらいたいからだ。」 • 「りんごが自分の子どもみたいにかわいいから。」 <p>~~~~~</p> <p>りんご農家では、地球温暖化による天候の不順に対応できるように、また作業の効率化を図るため、「標高差を利用した農法」や「高密度栽培・わい化栽培」等の様々な工夫をして、りんごを育てている。</p> <p>りんご農家では、おいしいりんごを多くの人に食べて喜んでほしいという思いを持って、りんごの栽培に取り組んでいる。</p> <p>~~~~~</p>	<p>◇りんご作りの工夫・努力と大変な状況にある原因とを関連付けながら、板書にまとめていく。</p> <p>◇飯田さんのお話を想起し、りんご作りへの思い・願いを考えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 飯田さん・高寺さんの動画（りんごづくりにかける思い）を視聴する。 	<p>〔学習カードと子どもたちの発言から〕</p>
--	---	--	---------------------------

《P6》 ⑦

<p>6「りんごは、どうやって、私たちの食卓にのぼるの だろう？」</p> <p>(1時間)</p>	<p>☆「秋になると、りんごは、どうやって収穫し、出荷されていくのだろう？」</p> <p>○資料「わたしたちの上田市」の資料から、気づいたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あんなにたくさんのりんごを1つ1つ手でとって収穫しているんだね。大変だなあ。 ・1学期にR&Cながの青果さんに行ったけど、あの倉庫の中には、秋になると、りんごがいっぱいになるらしいよ。 ・農家→JA→市場→スーパーの順番に、僕たちの家に来るんだね。 <p>《P6》⑧</p>	<p>◇資料「わたしたちの上田市」を提示し、手作業で1つ1つりんごを収穫していることに気づくようにしていく。</p> <p>また、りんごの種類ごとに収穫の時期が異なっていることに、気づくようにしていく。</p> <p>○農産物流通センターでは、農家やJAから集められたりんごが、機械で選別され、全国の市場に出荷されていることを紹介する。</p>	<p>【思考・判断・表現】②</p> <p>「りんごの収穫作業や集荷作業等の様子、JAや市場を通して、身近なスーパーや全国に届けられていることから、両者のつながりについて、気づいたことを発表したり、メモをとったりしている。」</p>
<p>7「上田市・神科の美味しいりんごを知ってもらうには、どんな宣伝をしたらよいのだろうか。」</p> <p>(2時間)</p>	<p>☆「りんご農家の皆さんの願いがこめられた『りんごポスター』を作って、お客さんに宣伝しよう！」</p> <p>○上田市のりんごのおいしさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よさをみんなで出し合い、ポスターの構想を立てる。 ・りんご三兄弟とサンふじのおいしさを紹介したいね。 ・りんご農家さんがどんな作業をしているか、お客さんにわかしてもらいたいな。 ・写真やコメントを入れると、お客さんに分かりやすいかも <p>上田市(神科地区)では、昔からりんごの栽培が盛んであり、「サンふじ」をはじめ、「りんご三兄弟」等の品種が生産されている。標高差を利用した栽培、高密植わい化栽培等の工夫をしながら、おいしいりんごを育てるための努力をしている。また、りんごは、JA農産物流通センターや各市場から県内・県外の市場等に販売され、地域の人々の生活と密接につながっている。</p> <p>《P6》⑨⑩</p>	<p>◇これまでの学習を振り返り、学習カード等に、上田市のりんごの種類やおいしさをまとめていく。</p> <p>また、りんご農家の方々が取り組んでいる工夫や努力をまとめていく。</p> <p>◇ポスターに、何を中心に書き込んでいくか(紹介するのか)を話し合う場を設定する。</p>	<p>【知識・技能】②</p> <p>「りんご農家の仕事や工夫・努力、りんごがどのように食卓にのぼるのかを理解し、ポスターにまとめることができる。」</p> <p>〔ポスターへの取り組みやその内容から〕</p>

6 授業づくり構想シート〔本時案〕

日時	9月6日(水)	授業学級	3年1組〔男子14名・女子15名・計29名〕
場所	体育館〔3年1組教室〕	授業者	横澤 芳幸
教科	社会科	単元名	農家の仕事～上田市のりんごづくりを調べよう～〔12時間中9時〕
ねらい	りんご農家の方たちがりんごづくりでどのような工夫や努力しているのかを調べてきた子どもたちが、なぜこのような工夫や努力をしているのかを考える場面で、りんごづくりでの工夫や努力の目的・メリット(利点)とりんご農家が抱えている問題(状況)の原因をつなげて考え合うことを通して、りんご農家の方たちが多くの人においしいりんごを食べてもらいたいという願いを持って、地球温暖化や気候不順でも良いりんごが実るように、また無理なく作業ができるように、様々な工夫や努力をしているということが分かる。		

Step 1 まずは「ねらいを達成した子どもの姿」を考える

授業前までの子どもの実態(素地力、既習内容、興味関心)は？

○りんご農家の方がどんな工夫や努力をしているのか、また工夫や努力は何のためにしているのかを調べてきた。標高差を利用したりりんご作り(気候不順に対応する・作業の分散化・効率化)・高密度栽培・わい化栽培(品質の良さ・多収穫・肥料や消毒の軽減・作業のやりやすさ)等。

授業の終末に、子どもたちがどんな発言・記述をすれば本時のねらいが達成されたのか？

○りんご農家の方たちは、おいしいりんごを多くの人に食べて喜んでもらいたくて、色々な工夫や努力をしているんだ。・地球の温暖化(霜や暑さ)にも負けないように、工夫をしておいしいりんごを育てているんだ。・手がかからないような工夫をしたり、たくさんりんごを育てる工夫をしているんだ。

※付きたい力は？

：りんご農家の方々が色々な工夫や努力をしているその理由や願いを考え、発言しようとしている。(思考・判断・表現)

Step 3 「めりはりのある展開」を考える

終末の子どもの姿につながるには、どんな学習活動にすればいいのか？

導入

(1) 学習問題・課題〔めあて〕の提示

学習課題：「りんご農家の方がしている工夫や努力には、どんな理由や良さがあるのか考えよう。」〔2'〕

展開

(2) りんご農家の方が取り組んでいる工夫や努力をまとめ、その理由や利点・目的などを発表し合いまとめる。〔15'〕

- ・標高の違うところで育てている。→収穫の時期がずれるから、仕事が楽になる。霜がおりても、他の〔標高の違う3カ所の果樹園〕場所のりんごは無事に育つ。標高に合ったおいしいりんごが育つ。
- ・高密度栽培・わい化栽培をする。→木が小さいので、作業がしやすい。(剪定・消毒・肥料等)〔小さい木をせまく植える〕良いりんごがたくさん実る。
- ・お客さんに直接りんごを売る。→おいしいりんごを買ってもらえる。お客さんに喜んでもらえる。

(3) りんご農家の方々は、どんな思いや願いを持って、工夫や努力をしているのか、考え発表し合う。

「なぜ、こんなに工夫や努力をしているのだろう(頑張っているのだろう)?」〔15'〕

※飯田さんのお話やりんご農家の状況をふり返ったり、動画(飯田さん・高寺さんの思い)を視聴したりする。

- ・自分の子どものようにりんごが大事なんだ。だからりんご作りを頑張っているんだ。
- ・お客さんに喜んで食べてもらえることがとてもうれしいんだ。
- ・おいしいりんごが作れた時がとてもうれしいんだ。だからいろいろな工夫をしてりんご作りを頑張っているんだ。

終末〔まとめ〕〔ふりかえり〕

(4) 本時の学習で分かったことをまとめ発表し合う。〔13'〕

○地球の温暖化(遅霜や暑さ)でも、工夫をしておいしいりんごを育てている。○手がかからないように工夫をして、たくさんりんごを育てている。○りんご農家は、おいしいりんごを多くの人に食べて喜んでもらいたくて、頑張っている。

・霜などにあっても、おいしいりんごをつくらうとしている飯田さんや永井さんたちはすごいなあ。・お客さんにおいしいりんごを食べてもらうことがとてもうれしいんだ。だから頑張っているんだね。

・大変な状況の中でも、おいしいりんごを食べてもらうために、いろいろな工夫や努力をしているんだね。

授業構想の流れ

実際の授業の流れ

Step 2 「本時の学習問題・課題」を考える

終末の子どもの姿につながるには、どんな学習問題・課題にすればいいのか？

学習問題：「りんご農家の方々は、なぜこのような工夫や努力をしているのだろう。」

参観の観点

「りんご農家が抱えている問題とりんごづくりの工夫や努力の内容・利点」を関連づけて話し合ったり、動画を視聴したりしたことは、りんご農家が工夫や努力をしている理由やその思い(願い)に気づくことにつながったか。

④ 単元の構造図

知識技能

上田市（神科地区）では、昔からりんごの栽培が盛んであり、「サンふじ」をはじめ、長野県オリジナルの“りんご三兄弟”等の品種が生産されている。地球温暖化や消費の停滞による生産量・農家数の低下等の課題がある中、標高差を利用した栽培、高密度わい化栽培等の工夫をしながら、おいしいりんごを育てるための努力をしている。また、つくられたりんごは、JA農産物流通センターや各市場から県内・県外の市場等に販売され、地域の人の生活と密接につながっている。⑨⑩

中心概念
(概念的知識)

働かせる社会的事象の見方・考え方〈5W1H〉

位置や空間的な広がり

私たちの住む上田市（神科地区）では、〇〇を中心に様々な野菜や果物等が栽培されている。〔りんご・米・キャベツ・レタス等〕 ① 地理的位置、分布

【長野県・上田市・神科地区・農産物・りんご・特産品・〇〇中心の栽培の広がり】

上田市やここ神科地区では、扇状地のため水はけがよく降水量も少ないため、昔よりりんごの栽培が盛んで、特産品になっている。② 地理的環境、気候、土地利用

【栽培・農家・栽培条件・気候・降水量・寒暖差・扇状地・水はけ】

りんごは寒さに強く、暑さに弱い果物。雨が少なく、昼と夜の気温の差が大きい方が美味しいりんごができる。長野県やここ上田市が、りんごの栽培にとっても適している。④

自然条件【品種・品種改良・りんご三兄弟・サンふじ等】

時期や時間の経過

長野県一番多く栽培されているりんごは、「サンふじ」。長野県オリジナルの「シナノスイート」「シナノゴールド」「秋映」のりんごを“りんご三兄弟”と言ひ、全国で人気がある。また様々な品種が改良されてきている。

③ 変化、発展、継承、維持、向上【栽培条件・気候・降水量・寒暖差】

長野県や上田市（神科地区）では、地球の温暖化（暖冬や遅霜）、また、りんごの価格の低下・消費の停滞により、りんごの品質が落ち、栽培面積・生産額・農家数が減ってきている。⑥ 変化、背景

【温暖化・遅霜・生産量・農家数・消費】

事象や人々の相互関係

りんごの栽培には、「剪定・受粉・葉つみ・収穫・選別等」の様々な作業があり、病気を防ぐために、年に10回以上の消毒を行っている。

⑤【作業（剪定・受粉・葉つみ・収穫・選別・消毒）】工夫、努力、対策、願い

りんごの収穫は秋の冷え込む時期に、手作業で行われている。市内のJA農産物流通センターやR&Cながの青果を「はじめ、県外の市場へも送られており、多くの食卓にのぼっている。⑧ 願い、業績、働き、つながり、関わり、仕組み、協力連携【市場・手作業・出荷・送り先】

標高差のある場所で色々な種類のりんごを栽培したり、高密度栽培を行ったりすることで、作業の効率化・負担軽減を図り、より美味しい品質の良いりんごをつくるための様々な工夫をしている。また、長野県では更に美味しいりんごをつくるための品種改良にも取り組んでいる。⑦ 工夫、努力、対策、願い、連携、つながり、仕組み、協力連携、影響【標高差・作業・効率化・分散】

思考判断表現

つかむ → 調べる → いかす

課題把握【動機付け、方向付け】

単元を貫く学習問題や1時間ごとの学習問題の立ち上げ

(子どもにとって解決したい問い)

- ・5W1Hを解決する学習問題
- いつ、だれが、どこで、何を
- なぜ、どのように

課題追究【情報収集、考察・構想】

- ・学習問題に対する調査活動（人、資料、）
- まずは一文で表していく。
- ・調査したことを白地図や年表などに表す
- ・どのような違いや共通点があるかなどの比較・分類・総合
- ・これまでの既習事項との関連づけ
- ・解決したい事象との出会い（グラフや表、データから）
- ・課題を把握して、選択、判断する

課題解決【まとめ】

- ・地域の人々と国民生活の関連づけ
- 自分の生活やくらしとの関連を考える
- ・学習をふりかえって考察する
- ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る
- ・学習成果を学校内外の他者に伝える
- ・新たな問いを見出したり追究したりする
- ・地域への誇りや愛情を感じる

学びに向

かう力

人間性等

よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度

- ・主体的に問題を解決しようとする態度
- ・よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度

「多角的な思考や理解を通して」涵養される自覚や愛情

- ・地域社会に対する誇りと愛情
- ・地域社会の一員としての自覚
- ・我が国の国土と歴史に対する愛情
- ・我が国の将来を担う国民としての自覚

単元

全体目標

上田市のりんごに携わる農家の仕事について、りんごの栽培条件や仕事（作業）の種類、仕事の工程、生産量やりんご農家の戸数等に注目して、見学・調査したり、地図等の資料で調べたりして、まとめることで、りんごの生産に携わる方々の仕事の様子をとらえ、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、農家の仕事は地域の人々の生活と密接な関わりを持って行われていることを理解できるようにすると共に、主体的に学習問題を追究しようとする態度を培う。

(4) 研究の成果

- ・前時までの学習の様子が手に取るようにわかる掲示や、りんご農家の工夫や努力をしている理由の動画視聴は、子どもたちの社会的事象の見方・考え方を生かして見出した課題を追究する姿につながっていた。まさに「教師の探究＝子どもの探究」であることを体現できた。
- ・子どもが個人、小集団で追究することを自分の意志で選択できる場面があり、子どもが追究の中で生じた疑問や課題を主体的に追究する姿が見られた。

(5) 研究の今後の課題

本時のねらいに照らし合わせた追究場面・方法・教材提示をより吟味し、よりねらいに迫ることができるような授業実践を考えていきたい。

2 神科小学校における研究協議Ⅱについて

- ・ジャムボードは、社会科の授業で活用しやすいツール。
- ・また、フォントが固定化しているので、統一感が出やすい。
- ・スライドは発表に活用しやすい。
- ・ドキュメントもテンプレートを作ると扱いやすい。
- ・ピクチャーキッズもテンプレートが豊富で扱いやすい。
- ・フォームでのミニテストも有効。
- ・クラスルームで、手順表などを共有。
- ・意見交換での活用は、低い。→主体的な学びにつなげていく。

○活用に向けて下記のことで活用できるということを教職員が意識して活用できると良い。

- ・共有の効率化・時間短縮
- ・情報の収集、整理、分類

3 真田中学校の実践から

(1) 研究の概要

重点「学びの自立～生徒に委ねる活動を通して～」の具現に向けて、既習とのつながりや比較を捉えることができる資料提示や発問の工夫、および、グループでの話し合いや全体で考えを共有する場面でICTの活用のあり方を追究した。

(2) 研究テーマ

自ら進んで学び、個々の考えを伝え合うことで、社会的事象に対するものの見方・考え方を広めたり深めたりする学習はどうあったらよいか。

(3) 学習指導案

① 単元名 『世界各地の人々の生活と環境』

② 単元設定の理由

【このような生徒に】

- 様々な社会的事象に興味を持ち、教師の問いに素早く反応し、直感的に社会的事象を捉えることができる。
- 答えが明確で一つしかない課題やドリル的な学習に前向きに取り組むことができる。
- 複数の社会的事象や資料を関連させて、異なる視点や様々な面から新たな社会的事象を捉え、思考を深めていくのが苦手。
- グループでの学習を好み、進んで自分の考えを伝える姿が見られる。

【このような教材で】

- 世界各地の自然環境と向き合いながら生活する人々の様子や工夫、宗教をはじめとする社会的条件によって異なる人々の生活などについて、写真、グラフ、主題図等、様々な資料から捉えることができ、課題を追究する際に、自分にとって分かりやすい資料を選択できる。
- 自分たちをとりまく自然環境や社会的条件、生活等の違いから、興味・関心を持って課題を追究することができる。

【このような手立てで】

- 世界各地の自然環境や宗教、人々の生活の様子(衣食住)などについて、資料をもとにしてそれらの特徴を調べ、分かったことを表などにまとめる。
- 異なる地域の自然環境や宗教をはじめとする社会的条件、人々の生活の様子(衣食住)を比べ、同じ点や相違点を明らかにしていく。また、それぞれの地域での生活の変容についても比較する。
- 調べたり考えたりした結果を伝え合い、グループ内で確認したり分からないことを教え合ったりする。(ICT を活用する。)

【このような生徒の姿を目指す】

- 世界各地の人々の生活とその変容について、自然環境や、宗教をはじめとする社会的条件と関連づけて考察し、多面的、多角的に社会的事象を捉えていく生徒。
- 自然環境や社会的条件によって異なる人々の生活に興味・関心を持ち、多様性を認め、大切にしようとする生徒。
- 友だちと調べたり考えたりした結果を伝え合い、社会的事象に対する自分の捉え方や考え方を広めたり深めたりしていく生徒。

③ 単元の目標

【知識・理解・技能】

- 世界各地の人々の生活と環境に関する資料から、自然環境や宗教などの特徴や、人々の生活の様子や変容などを読み取り、それぞれの地域の多様性を理解する。
- 世界各地の人々の生活は、自然環境や宗教をはじめとする社会的条件の影響を受けていることに気づく。

【思考・判断・表現】

- 異なる地域における自然環境や社会的条件、人々の生活の様子などを比較して、相違点や共通点を見つけ出し、表現することができる。
- 世界各地における人々の生活の特色や変容を、その生活が営まれる場所の自然環境や社会的条件と関連させて考察することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 世界各地の自然環境や宗教などの特徴に興味・関心もち、それらの影響を受ける人々の生活や価値観の多様性を認め大切にしようとする。
- 自然環境や宗教、人々の生活などについて調べたり考えたりした結果を進んで伝え合い、社会的事象に対する見方や考え方を深めたり広めたりすることができる。

④ 単元の指導計画 (全 10 時間)

学習過程	評価規準
1 世界の様々な住居	<ul style="list-style-type: none"> ・1枚の写真から、または複数の写真の比較から、各地の自然環境の特徴を読み取っている。(知技) ・探究課題に対する予想を立て、見通しを持って追究しようとしている。(態度)
単元全体の学習問題:人々の暮らしは、なぜ場所によって異なるのか。	

2 雪と氷の中で暮らす人々	<ul style="list-style-type: none"> ・雨温図の読み取りかたを身につけ、寒帯地域の気候の特徴を捉えている。(知技) ・イヌイットの暮らしやその変容が、自然環境や社会的条件とどのように関わっているのか考察し、その結果を分かりやすく表現している。(思判表)
3 寒暖の差が激しい土地に暮らす人々 <本時>	<ul style="list-style-type: none"> ・雨温図や写真から冷帯の自然環境や人々の生活の特徴を読み取っている。(知技) ・自然環境と人々の生活とを関連させて考察し、自然環境の違いが冷帯と寒帯との生活の違いにつながっていることや、現代化が進み、ともに伝統的な生活が変化していることに気づいている。(思判表)
4 温暖な土地に暮らす人々	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ温帯地域でありながら日本と異なる自然環境や生活の特色が見られることを理解し、その背景を考察している。(思判表) ・イタリアの暮らしの変化に着目し、伝統を守る人々の取り組みについて知るとともに、自分たちが暮らす地域でも、同じような取り組みが行われていることを理解している。(知技)
5 乾燥した土地で暮らす人々	<ul style="list-style-type: none"> ・乾燥地帯の自然環境と、そこで営まれている生活の特徴を理解し、それらに関係づけて説明している。(知技) ・サヘルで暮らす人々の生活や自然環境の変化を捉え、その背景を考察し、砂漠化が進行していることが分かっている。(思判表)
6 常夏の島で暮らす人々	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物や食生活、衣服や住居の様子を熱帯の気候の特徴と関連させて考察し、その結果を分かりやすく表現している。(思判表) ・資料から読み取ったことをもとにして、観光開発の必要性や課題を知り、持続可能な開発の進め方について考えを持っている。(知技)
7 標高の高い土地に暮らす人々	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境や生活の違いから、標高の差がそれらの違いにつながることに気づき、高山気候で生活する人々の暮らしの知恵を自然条件と関連させて考察している。(思判表) ・資料から開発の様子を読み取り、それらによって人々の生活に変化が生まれたことを知り、自然保護や生活などの課題を見つけている。(知技)
8 世界に見られる様々な気候	<ul style="list-style-type: none"> ・気温と降水量の違いに着目し、世界の気候は、気候帯やさらに細かい気候区に区分できることを理解している。(知技) ・各気候区の特徴について、植生、気温、降水量、緯度、標高などと関連づけて表にまとめている。(思判表)
9 人々の生活に根付く宗教	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教と人々の生活を関連させて考察し、宗教が人々の生活に大きな影響を与えることが分かっている。(思判表) ・それぞれの人々が宗教を大切にしていることを知り、異なる宗教の価値観を尊重しようとしている。(態度)
10 まとめの活動 世界一周旅行を企画しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活は、その生活が営まれている場所の自然および社会条件から影響を受けることや、宗教をふくむ人々の生活には多様性があることについて、まとめの活動を通して振り返っている。(態度)

⑤ 本時案

(1) 本時の主眼

イカルイト(寒帯)の自然や人々の生活について知った生徒たちが、シベリアの自然環境やそこに暮らす人々の生活について調べる場面で、分かったことを表にしたり、イカルイトと比べたりすることを通して、冷帯の自然環境と生活の特色を関連づけて考えたり、便利な生活が広まり、様々な地域で伝統的な生活が変容していることに気付いたりできる。

(2) 指導上の留意点

資料の読み取りに抵抗のある生徒は、個別に資料読み取りの着眼点やその資料の意味を伝える。

(3) 本時の展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	教師の支援	時間	資料
導入	1 シベリアの冬の様子を見てみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・分厚い毛皮を着ている。 ・市場の魚が凍り付いている。 ・氷に標識が立っている。 ・湖が凍って道路になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤクーツクとバイカル湖の位置を確認する。 ・ヤクーツクの市場と凍結したバイカル湖の写真を提示する。 ・冬の低温に着目させる。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・冬のヤクーツクの市場 ・凍結したバイカル湖
	2 予想してみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・毛皮を着ている。 ・動物の肉を食べる。 ・暖かな家に住んでいる。 ・犬そりを使っている。 ・アザラシを捕っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スプレッドシートに記入させ、互いの考えを見合うことを伝える。 ・イカルイトの様子を参考にして、いる考えをいくつか取り上げる。 	7	
展開	学習問題: 冬の寒さが厳しいシベリアの人々はどのような生活をしているのだろう。				
	学習課題1: シベリアの自然環境や、そこに暮らす人々の生活について衣・食・住に着目して調べてみよう。				
開	3 シベリアの自然の様子や人々の生活の様子を表にまとめよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境、衣、食、住について、資料をもとに表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤクーツクと上田市の雨温図の比較から寒暖差の大きさに注目させる。 ・冷帯の語句とその気候的な大まかな特徴を伝える。(寒暖差が大きい、厳しい冬の寒さと比較的暖かく短い夏) ・「タイガ」について説明する。 	13	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤクーツクの雨温図 ・冷帯の分布図(写真) ・ヤクーツクの夏と冬の写真 ・シベリアの食事 ・ダーチャ ・タイガ ・ログハウス

展 開		<ul style="list-style-type: none"> グループ内で学習カードを交換して見合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを見合うとき、自分と同じ内容や、自分が気づかなかったことなどについては印をつけさせる。 自分が書けていない内容については、書き足しても良いことを伝える。 	野菜の漬けもの 高床のアパート スーパーマーケット 冬の室内	
	学習課題2:シベリアの自然や生活をイカルイトとくらべてみよう。				
展 開	4 自然や生活の様子について、シベリア(ヤクーツク)とイカルイトの違う点や共通している点はどんなところだろう。	<ul style="list-style-type: none"> シベリア(ヤクーツク)とイカルイトの自然や生活の様子を比べ、相違点や共通点をジャムボードに付箋で貼り付ける。 違う点 【自然環境】「冬はヤクーツクの方が寒い、夏は暑い。」「シベリアでは木が生えるが、イカルイトでは木は育たない。」 【生活様式】「シベリアでは野菜を食べるがイカルイトでは生肉を食べる。」「シベリアでは夏に野菜を育てる。」「シベリアは木の家、イカルイトは氷の家。」 共通点 「年平均気温が低い。」 「スーパーで買い物できる。」「毛皮の服」「高床の建物」 「冬でも暖房完備で快適に暮らせる。」	<ul style="list-style-type: none"> 付箋の色分けをして見やすくする。 個人の意見→黄色 グループでつけた見出し→ピンク 個人の意見については、同じ内容であってもよいので、積極的に貼り付けるよう伝える。 違いと共通点について、自然環境と生活様式の二つの項目に分けて貼り付ける。 	20	前時使用した資料と学習カード イカルイトの雨温図 寒帯の分布図(写真) 氷雪気候 ツンドラ イヌイットの毛皮 生肉を食べる様子 アザラシ皮のテント イグル 犬ぞり スノーモービル スーパーマーケット 暖房完備の高床の住居
	5 グループで話し合い、意見をまとめよう。	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境の違い、生活様式の違い、共通点ごとに同じ意見をまとめて見出しをつける。 	<ul style="list-style-type: none"> グループで話し合い、同じ意見はまとめて見出しをつけさせる。 		
	6 他のグループの話し合いの結果を見よう。	<ul style="list-style-type: none"> 他のグループが作ったジャムボードのフレームを自由に閲覧する。 	<ul style="list-style-type: none"> 他のグループの結果を見て、気づいたことや分かったこと、「なるほど」と思ったことなどを学習カードに記入させる。 数名に発表してもらおう。 		
終 末	7 今日の学習で分かったことを記入する。	「冬の気温はかなり低い、夏はわりと気温が上がるヤクーツクでは、丸太の家や毛皮の服で厳しい寒さを防ぎ、夏の暑さを利用して野菜を栽培して、食料を得ている。」「一年中寒いイカルイトでは木や野菜は育たないが、冬寒くても夏は暖かいシベリアでは、木や野菜が育つので、木で家を建てたり野菜を塩漬けにして冬に備えたりしている。」「ヤクーツクでは、イカルイトと同じようにスーパーで買い物ができるようになり、生活が便利になっている。」	<ul style="list-style-type: none"> シベリア(ヤクーツク)の自然環境や生活の仕方だけではなく、イカルイトと比べてみてどうだったのかということにも触れるよう、助言する。 	5	

⑥ 観ていただきたいところ

- シベリア(ヤクーツク)の自然環境や生活の様子をイカルイトと比べたことは、人々の生活の特徴を自然環境と関連させて捉えたり、暮らしの変化が広がりを見せ、様々な地域で生活が便利になっていくのに気づいたりすることにつながったか。
- ジャムボードを使って、グループごとに個人の意見をまとめて見出しをつけたことは、互いの考えを伝え合い、様々な面から自然環境や生活の特徴を捉えるのに有効であったか。

(4) 研究の成果

- ・既習の地域との比較を意識できるように展開を工夫したことで、社会科の見方・考え方を働かせながら、主体的・対話的に取り組む生徒の姿が見られた。
- ・ICTの活用によって、個々の生徒やグループ間の考えの共有が瞬時になされるなど生徒の学びが活性化されていた。

(5) 研究の今後の課題

- ・生徒の学びや目的に応じたICT(アプリ)の選定。アプリの長短の見極め。
- ・協働的な学びにおける効果的なICTの活用のあり方。

4 真田中学校における研究協議Ⅱについて

(1) 各校のICT機器使用についての実践事例 (※□囲み、下線 長尾)

①デジタル教科書の使用

- ・千曲市では 黒板・チョークを使っていない タブレットで行っている
- ・印刷も生徒が自分ですることができる
- ・教科書の資料を拡大できるし、グラフの色分けもすることができる。このことにより、学力面で課題のある生徒も理解することができる
- ・共同編集のよさを活かしていない課題もあり

②自由進度学習

- ・教員がレクチャーをし、2時間目以降は自分で動画をみて進めている
- ・チェックポイントで教員が確認して、プリント学習を行い、次に進んでいくとやり方
- ・このようなやり方をすると苦手な子に寄り添えてとても良い

③アプリを使つての学習

- ・NHK FOR SCHOOL 都道府県を覚えるアプリなど
- ・桃太郎電鉄の教育版は面白いらしい
- ・ジャムボード スプレッドシートの使用
- ・ジャムボードでランキングを作成。ただし、どうしても会話が少なくなるので、それをどうするか課題
- ・東御市 タブレットの使用「ロイロノート」のよさを確認
提出したものが表示できる 立場でテキストの色を変えて提出できる
逆にグーグルアプリの使用があまりできていない
- ・養護学校 タブレットで読み上げる機能で意思表示をしている
- ・導入でテキストマイニングを使用 手を上げたくても上げられない子にはとても便利
- ・布資料を見やすくする工夫
- ・フォームで友達の意見の割合をみる 予想する場面でフォーム
- ・毎時間の授業の振り返りをスプレッドシートに記入する→学びが蓄積されていく
- ・まとめの場面でGoogleスライドを使う 個々でスライドを作っている(四中)

(2) ICTを使う上での課題

①授業とは関係のない使い方

- ・約束が決まなくて問題が起きる。すると、使用に制限が入る。生徒会で、この件を問題として解決に取り組んだ
- ・上田は、収納庫が遠い学校があり、管理に不便である。
- ・こっそりYOUTUBEを視聴する生徒がいるが取り締まりが困難である
- ・他のものをみてしまう 故障すると時間がかかる

②アプリを使用する際の課題

- ・対話が減ってしまう
- ・作ったものが印刷できない現状がある

- ・ 共有データで他の子のものを壊してしまう
 - ・ 予想する場面ですぐにネット検索をしてしまう子がいる
- ③書く機会が減少することについて
 - ・ 書く機会が減るが高校入試は書く形式なので、弊害がないかが心配
 - ・ 紙のノートの蓄積がタブレットだと難しい
 - ・ 付箋をタブレット上でやるのか、紙でやるのか、どんな状況で使うかが大事
 - ・ 職員で苦手な人もいるので共有するのが難しい
 - ・ 地域によって iPad だったりクロムブックだったりするので、転勤すると大変である
 - ・ 不具合が多い Wi-Fi の調子が良くないことがある
- ④生活面の変化について
 - ・ 対話が減ってしまう
- ⑤端末の持ち帰りについて
 - ・ 持ち帰りができないと余計難しい
- ⑥その他
 - ・ 打ち込むことが困難な子もいる タイピングなど使いこなすための機会が必要である
 - ・ 新聞を作るアプリがあるが、それを使えばハイクオリティな社会科新聞ができる
 - ・ 教科書も大切だ

(3) AI を教育現場でどう生かせるか

- ・ 大変な作業（要録、学年通信、道徳の所見）を AI にやってもらえる。テスト採点などを AI がやってくれるようになるかもしれない
- ・ 調べて出てくることを単元の問いにしても価値がなくなる
- ・ 生徒自身の内面に関係する問題が重要になってくる
- ・ 教員の業務削減 子どもが作文に使用した例あり

(4) 内川指導主事より

使っていくと見えてくる部分がある

使う中で、本当に使える道具なのかを子どもが判断できるようになればいい

そのために使用する機会を多く設けてほしい

五 研究のまとめと課題

教育課程会場校の授業を参観したり、教育課程研究協議会午後の研修を企画運営していく中で、社会科の授業改善に向けて、日ごろ授業を行う上での取り組みや悩み、課題を出し合うことでともに学び合うことができた。その中で、本年度特に話題となった点について、以下にまとめる。

【成果と課題】

- ・ 研究テーマである「ICT 活用」について、授業を参観させていただく中で、活用方法を客観的に捉えることができ勉強になったという意見が多数出た。また、ねらいによって ICT の使い方をどう変えていけばいいのか、今後はその点について考えていくきっかけとなった。
- ・ 地域素材をどう生かしていくのか、どう素材を発掘し、素材研究をしていけばいいのか考えていきたい。(授業者の先生の熱量を感じ、授業者が惚れる素材を見つけたいと思った)
- ・ 授業実践の蓄積の薄さ
 - 現在ある実践（発掘した素材）をどう継承し、使いたいときに探せるかを考えていく必要がある。
- ・ ICT 活用を推し進めたからこそ、紙媒体の大切さも感じる事ができた。今後はどうデジタルとアナログを併用しながら授業を展開させるのか考えていきたい。

【次年度へ向けて】

- ・教育課程研究協議会の中で出てきた「課題」を次年度のテーマに据えていくと、毎年新たな課題について研究していくことができるので、課題の洗い出しをしていく必要がある。
- ・地域素材の重要性を強く感じる事ができたので、来年度は学習をより身近に、子どもたちを引き寄せる地域素材の発掘や素材研究などをテーマに据えて研究をしていきたい。